

週刊ドボク

発行所: Chijiwa Publishing
緑が丘1号館
発行人: 曾川宏彬

第四回入札大荒れ

契約不調三件、予定入札価格超・書類不備も

2019年1月18日に行われた第四回入札において、予定入札価格を超える入札や書類不備などにより、利根川高規格堤防整備事業、摂津新田開拓事業、東京湾口大橋架橋工事の三件が契約不調となる大荒れの展開となった。

利根川高規格堤防整備事業では、ユニーク建設が純工事費より34%を上乗せする形で入札に踏み切ったが、予定入札価格を超過し、他の会社は入札を行わなかったためこの契約は不調に終わった。なおユニーク建設はこの他にも5件の工事に入札を行ったが、いずれも純工事費よりも30%から42%割増した価格で入札を行っており、一社のみかつ予定価格ギリギリの入札戦略を試みたが、いずれも落札する

ことができず失敗に終わった。他方で、摂津新田開拓事業では、森脇キレート一社のみが入札を行ったが、同社は純工事費の5倍の価格で入札を行う暴力的入札を行い、契約現場は一時騒然となった。同社の経理担当は、すっかりルールを忘れてしまったと弁明したが、入札予定価格をまるで無視した入札行動に森脇キレートの信用が揺らぐ結果となった。また東京湾口大橋架橋工事では、Crazy Chama一社が入札を行うものの、摂津新田開拓事業の入札内容との混同を原因とする書類不備が確認された。これを受け、発注者側による打診により、賠償措置としてCrazy Chamaには純工事費に対し1%の損害賠償請求

お詫び

弊社は、平成三十一年一月十八日に行われました「摂津新田開拓事業」の入札におきまして、書類不備により、円滑な入札運営を妨げ、皆様にご迷惑をおかけしたことを深くお詫びいたします。また結果として、「摂津新田開拓事業」が契約不調に至り、事業へのご期待に応えられず大変申し訳なく感じております。現在、本件の処置につきましては入札事務局へ判断を委ねておりますが、弊社としては、本件を真摯に受け止めて、再発防止に向け、社内体制と業務を見直し、各手続におおいては複数社員による重複確認を徹底し、これまで以上に社会変革の駆動力となる会社を目指していく所存でございますので、何卒ご容赦を頂きますようお願い申し上げます。

Crazy Chama Construction Company

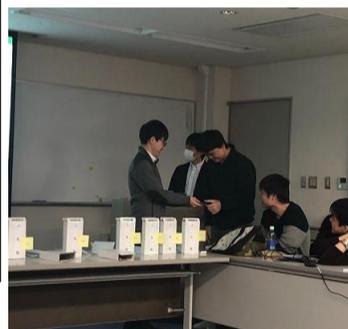
代表取締役社長 栗原遼大

及び週刊ドボクへの謝罪広告の投稿が決まった。いずれにせよ入札が二回に迫る切迫した状況の中、各社の焦燥な入札行動が健全な入札を妨げ、ひいては契約不調という社会的損失を生み出した。各社とも、より一層の社内モラル引き締めと適切な判断が求められる。

入札制限と地場優遇

任ザキ・UBの好対応

第三回入札を受け、任侠ザキヤマ組に対する入札制限と、地場企業優遇措置に伴う地域性コストダウン率拡大が導入された。これを受け、任侠ザキヤマ組とUnited Bubbles各社は適切に対応し落札を勝ち取った。任侠ザキヤマ組は労基署の内値もあり、第四回入札では入札数を最大4に制限される措置を受けた。これに対し、任侠ザキヤマ組代表取締役社長小田切勝也氏は、これまで我々の労働環境は適正であり、このような措置を受けたことについては誠に遺憾であると述べた上で、これまで通り誠実に仕事をするだけだとコメントした。その後の第四回入札では2件に限定した工事を見事落札し、毅然とした経営判断を改めて示した。一方で既に第三回入札終了時点で受注目標を超えたため、もともと入札件数を少なく



事故カードを引く 森脇キレート土木部長Bank

見方も強い。一方、地場企業優遇措置により追い風を受けた、北日本に本社を置くUnited Bubblesは、第四回入札で、手堅く北日本の工事2件を落札した。しかし、第五回入札で対象となるプロジェクトのうち三分の一が北日本での工事である。他社が起死回生を狙い、一億をかけ北日本に本社移転を行う可能性もあり、予断を許さない状況が続く。

入札終盤戦

予定価格引上げか

入札ゲームも終盤に差し掛かり、全60件の建設プロジェクトのうち47件の入札が完了した。一方で急速に進む建設プロジェクトによって、建設業界で人手不足や資材価格の上昇が問題となってきた。これを落札上限価格である入札予定価格の見直しを検討されるのではとの見方が強まってきた。第五回の最終入札では、千々と湾干拓工事や岩波港拡張工事等の工事難易度の高い事業が多い

一番くじ運がいいのは誰だ！

独自調査！

勝手に土木部長番付！！

工事が順風満帆かトラブル続きかは、自社の利益の大小に大きく影響する。そこで、各社の土木部長がどれほどいい仕事をしているのか独自調査を行った。なお以下の値は、第四回入札までの各社の工事による損失額を全受注額で割った値である。なお彼らへの評語もつけさせていただいた。

- 第一位 ユニーク建設 Rajib 土木部長 -2% (ラッキーボーイらじぶ)
- 第二位 Crazy Chama Chama 土木部長 -0.48% (窓際招聘技師)
- 第三位 任侠ザキヤマ組 高橋土木部長代理 0.73% (七転び八設備不良)
- 第四位 United Bubbles 伊藤土木部長 1.53% (やさぐれ部長陳情派)
- 第五位 森脇キレート Bank 土木部長 2.11% (落札！じこざんまい！)

最後の入札で順番の入れ替わりは十分ありうる。さらなる評価アップ、名誉挽回を目指し、腕を奮ってトランプを引いていただきたい。

建声人語

日本の飲み会では年上なのでお金を多めに取られて不当に思う人は少ない。しかし欧米では、きつかり割り勘、あるいは自分が飲み食いした分は自分で払うことが通例だ。▼すなわち日本人は「平等」よりもむしろ「水平」にこだわる民族だとも言える。シーソーゲームをしていて、自分の体重の方が重いならば、同じ条件で戦わず、少し前の方に座ることを厭わぬ国民性なのだ。▼20世紀の日本では談話が「必要悪」とばかりに横行してきた。一方でもし「平等」な入札が行われていたら、大が小を食う競争原理を、「水平」的日本人モラルが受容できなかった可能性はある。つまり談話は日本人モラルにとって「必然悪」だったのかも知れない。▼もちろん談話は悪だ。談話が不平等に生む一部の人間のための利益を、納税者全体が背負うことになるからだ。▼近年確かに談話は減ってきた。だが談話が許されなくなった現代に、建設市場を支えるのは何か。そしていま現場は国内だけではなく、海外市場との狭間で、どこへ向かえばいいのか。日本人企業モラルの真価が問われている。

リサイクル骨材専門
クリーンな社会を目指して
中村スラグ(株)
研究室にたまったスラグたちを
まとめて処理してみませんか
フリーダイヤル 0120-188-640